

すみだ

議会だより



No. 180

令和5年
1月13日

【特集】
町の実情を訴える
町政調査会 国会要望
町職員の定年65歳に（12月議会おらまじ）
町の考えを問う（6議員が一般質問）
所管事務調査レポート
すみだ想い人

19

16

8

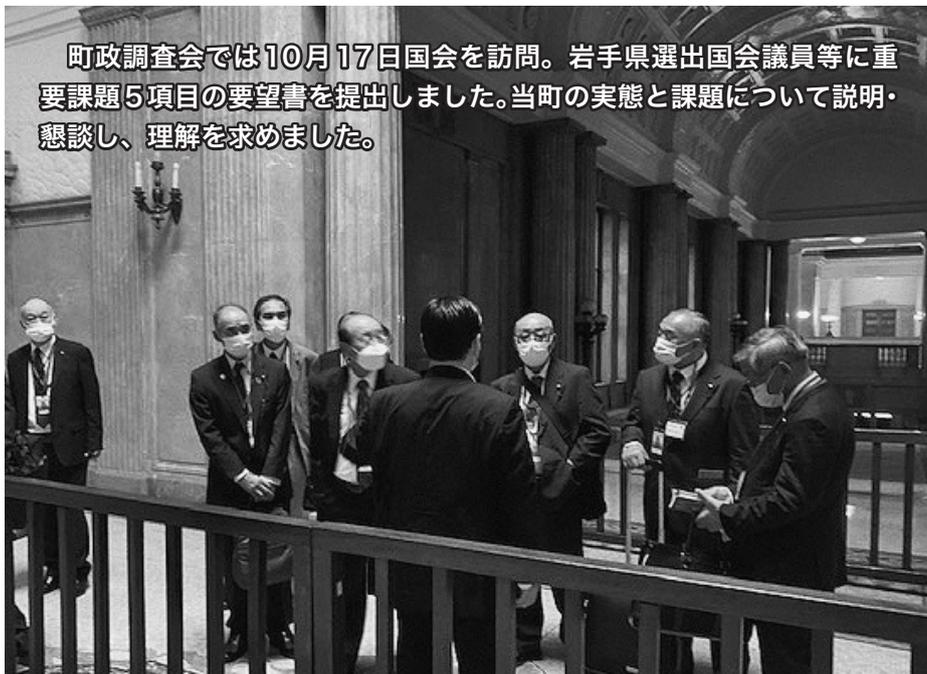
21

22

「サンタさん、たくさんプレゼントありがとう!!」

《世田米保育園》 関連記事 20p

町政調査会 国会要望



町政調査会では10月17日国会を訪問。岩手県選出国會議員等に重要課題5項目の要望書を提出しました。当町の実態と課題について説明・懇談し、理解を求めました。

訪問国会議員

- 衆議院議員
鈴木 俊一 (自民党) 公務で不在
- 衆議院議員
藤原 崇 (自民党)
- 衆議院議員
小沢 一郎 (立憲民主党)
- 衆議院議員
階 猛 (立憲民主党) 公務で不在
- 衆議院議員
高橋 千鶴子 (日本共産党・東北比例)
- 参議院議員
広瀬 めぐみ (自民党)
- 参議院議員
横沢 高德 (立憲民主党) 公務で不在

△ 10月17日、国会議事堂、衆・参議院議員会館訪問。県選出国會議員に町の統一要望書を提出しました



▷ 藤原崇衆議院議員 (右から3人目)

岩手県選出国會議員に 要望書提出



▷ 小沢一郎衆議院議員 (右から3人目)



に要望書を手渡し懇談

要望項目

- (1) 地域医療体制の充実と連携強化について
住田地域診療センターの医師3名体制の確保、訪問診療の再開など地域医療体制の充実と在宅医療・介護の連携強化を図ること。
- (2) 農畜産業振興対策の推進について
水田活用の直接支払交付金について生産者が所得減少せず意欲をもって生産活動に取り組める支援措置を講ずるとともに食糧安保の抜本的強化を図ること。
- (3) 飼料・肥料・燃料等の生産原料等価格高騰対策について
飼料・肥料・燃油などの価格高騰に対する恒久的対策の創設と制度の拡充を図ること。
- (4) 国際リニアコライダー (ILC) の誘致実現について
- (5) 鳥獣被害対策の強化・充実について
鳥獣捕獲対策に係る狩猟免許の取得や鳥獣被害対策の助成制度の充実・拡充を図ること。

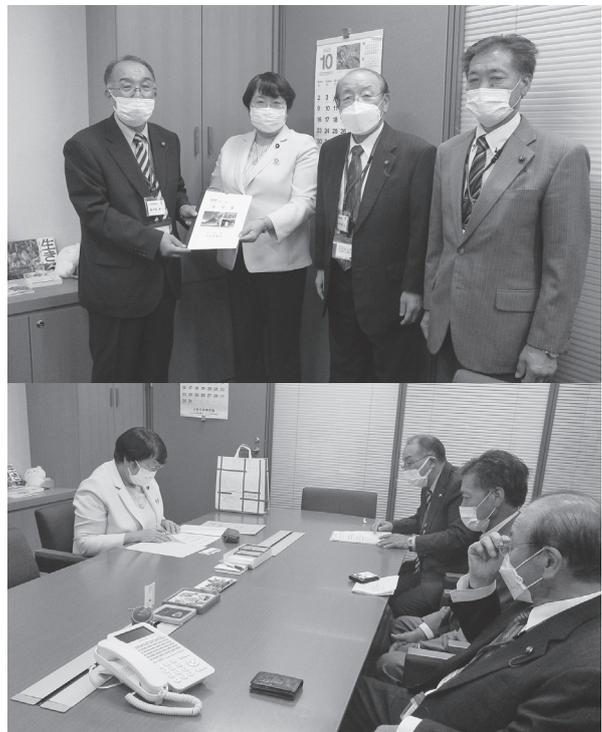
町の実情 を訴える

町の課題で懇談

▷ 広瀬めぐみ参院議員（右から3人目）に要望書を手渡し懇談



▷ 高橋千鶴子衆院議員（右から3人目）に要望書を手渡し懇談



10月18日

東京都内の当町と関わりがある「いわて銀河プラザ」と「港区エコプラザ」を視察研修しました。

港区エコプラザ

当町と「間伐材を始めとした国産材の活用促進に関する協定」を締結している東京都港区の「港区立エコプラザ」を訪問し、「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」の取り組みについて研修。
協定木材を利用した各種建築建材のカタログやサンプル等を提供している常設の展示スペースを見学。木質化アドバイザーの説明により、港区の取り組みについて理解を深め、交流しました。



△ 木質化アドバイザーの白鳥氏（左端）から協定自治体との木材建築の取り組みについて説明をうけました

いわて銀河プラザ

東京銀座にある岩手県のアンテナショップ「いわて銀河プラザ」を訪問しました。岩手県の恵まれた自然が育んだ安全でおいしい食品、職人の技が生み出す工芸品、産地直送の農畜産物など、「いわてブランド」が豊富に取りそろえられており、お買い求めいただけます。
さまざまなイベントも毎日開かれ、住田町の産品も展示販売されています。



△ 岩手県東京事務所も置かれ、情報発信の役割を果たしている「いわて銀河プラザ」

第26回定例会 (12月議会) あらまし



△ 来年度から町職員の定年が段階的に引き上げとなる

条例改正

町職員の定年65歳に 段階的に引き上げへ

—— 国家公務員の定年を基準に ——

第26回定例会（12月議会）は、12月6日から9日までの4日間の会期で開かれました。一般質問には、6人の議員が登壇し、移住定住政策、林業振興、郷土芸能保存、国保・介護保険、新型コロナウイルス感染症対策、二ホンジリ駆除と活用など、町政諸課題について論戦が交わされました。

本会議では、世田米本町の応急仮設住宅跡地に整備される施設の設置・管理条例や令和4年度一般会計補正予算など議案15件を審議し、すべて原案のとおり可決しました。

町では令和5年度から、段階的に職員の定年を引き上げていく内容が議会議員全員協議会で説明された。地方公務員法の一部改正に伴うもので、5年度は61歳定年とし、2年に1歳ずつ引き上げて13年度からは65歳が定年となる。

問 町職員の定年延長に踏み切る背景は。

答 昨年、国家公務員法の一部を改正する法律が成立し、令和5年4月から国家公務員の定年が段階的に引き上げられることとなり、管理監督職勤務上限年齢による降任・転任、定年前再任用短時間勤務の制度も設けられた。国家公務員の定年を基準としている地方公務員も同様の措置が取られることになる。

問 定年引き上げによる給与水準と対象職員への周知は。

答 定年引き上げによる給与水準と対象職員への周知は、

- 関連4条例の一部改正
- 職員の定年等に関する条例の一部改正
- 地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備等に関する条例
- 一般職の職員の給与に関する条例等の一部改正
- 職員の降給に関する条例

答 定年引き上げにより、61歳以上職員の給与は、60歳時の月額給与の7割水準となる。

問 課長職など管理監督職の職員の処遇は。

答 60歳に到達した年度の翌年度から、管理監督職の職員は、降任または転任となる。

期末手当 引き上げ

- 特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例の一部改正
- 会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正
- 議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正

○改正の理由

岩手県人事委員会が県に対して期末手当の引き上げを勧告したことに準じて、職員と特別職、会計年度任用職員、議員の期末手当を引き上げる関係条例の一部を改正した。

期末手当支給割合

職員	0.1ヶ月
特別職	0.05ヶ月
会計年度任用職員	0.1ヶ月
議員	0.05ヶ月



△ 工事現場を見学するツアー参加者（応募検討者）

条例制定

施設名は 「仕事と学び複合施設」 定住促進へつながりを

震災の遺構とテレワーク推進

■仕事と学び複合施設の設置および管理に関する条例

問 条例制定のねらいは。

答 東日本大震災発災時の後方支援及び木造仮設住宅を中心とした震災の記憶と記録を後世に残していく場。また、テレワークの推進による

雇用の活性化及び多様な人々が集まり交流することによる定住促進につながるまちづくりを実現していく場として設置する。

問 世田米本町の応急仮設住宅跡地に整備されている「仕事・学びの場」の施設の正式名称は。

答 「仕事と学び複合施設」とする。また、利用者に親しまれる施設にするため、愛称を募集している。

問 供用開始に向けて施設の管理・運営の担当者の確保を図るべきだが。

答 地域おこし協力隊1名と地域プロジェクトマネージャー1名を募集している。管理・運営の応募検討者向けの現地見学ツアーを実施していきたい。

条例廃止

■先端的技術実証ハウスの設置及び管理に関する条例を廃止する条例

実証ハウス解体

●世田米田谷地内に設置されていた先端的技術実証ハウスの解体に伴い、条例を廃止するものである。

補正予算

■令和4年度一般会計補正予算（第4号）

一般会計補正予算（第4号）は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出にそれぞれ2930万9000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ49億5862万4000円とする。

問 歳入の国庫支出金のうち土木費国庫

補助金「社会資本整備総合交付金」が1962万円減額されているが。

答 昭和橋工事の重点化により、町道改良分の配分枠が減少された。

電気料増額

問 各項目に電気料が増額されているが。

答 電気料金の高騰により、庁舎など公共関連施設の電気料金増額を見込み1687万円の増額補正した。できる限り節電に努める。

飼料用米生産補助金増額

問 飼料用米生産拡大事業費補助金の増額理由は。

答 飼料用米生産に取り組む経営体は4組織。作付実績面積が488鈔ほど増えたことによる。



謹んで
新春のお慶びを
申し上げます

町議会議員一同

第25回 臨時会 あらまし

第25回臨時会は、11月4日に開かれ、物価高騰対策などを盛り込んだ令和4年度一般会計補正予算（第3号）を原案のとおりに可決しました。

補正予算は、歳入歳出にそれぞれ8272万9000円を追加し、補正後の総額を49億2931万5000円としました。



補正予算

物価高騰支援町独自で手厚く

電気料金・灯油代・食品の値上がりにも備え



△ 電気料金や灯油代金の値上がりによる家庭の負担軽減給付金を支給

■電気料金等物価高騰対応分給付金
3150万円

電気料金負担軽減に
1世帯2万5千円

問 9月定例会で電気料金と灯油等の値上がりによる冬期間の家庭の経済的負担軽減を図るため、全世帯への1万円給付を可決していたが。

答 食品価格などの高騰も踏まえて追加で1万5000円を上乗せし、町内約2000世帯に対して総額2万5000円を年内に給付する。

■価格高騰緊急支援給付金
3200万円

非課税世帯支援
1世帯5万円

問 支援給付金の支給対象世帯と給付金額は。

答 住民税非課税世帯などに1世帯当たり5万円を配る国の緊急支援事業で、対象見込み世帯は住民税非課税世帯638世帯、家計急変世帯2世帯の計640世帯に支給される。

■介護サービス事業所等物価高騰対策支援金
320万円

福祉事業所
12事業所支援

問 支援対象の事業所は。

答 町内の介護サービス事業所および障害福祉サービス事業所の6法人12事業所に対して、利用人数に応じた支援をする。

■子育て世帯臨時特別支援金
1500万円

子育て世帯に
6万円給付

問 9月定例会では、県が児童手当受給世帯に対し1人当たり1万5000円を支援する「いわて子育て世帯臨時特別支援金給付事業費補助」に町が1万5000円を上乗せし、3万円を給付することとしていたが。

答 県の追加給付に合わせて町でも同額を追加し、合わせて6万円が給付されることとなる。町では独自策として受給対象者を高校生にまで拡大し、児童手当受給者、高校生合わせて約500人となる。

問 支援金額の基準は定められているのか。

答 訪問系は稼働自動車台数1台につき2万5000円（上限10台）。通所系は10万円、40万円、入所系は40万円、100万円、就労継続支援には10万円、20万円を支援する。

請願のゆくえ

町道の認定は、利用集落戸数3戸以上の基準に満たないため

不採択

請願第6号	町道清水沢只越線の改良舗装工事と林道只越線の町道認定と改良舗装工事について
請願者の住所・氏名	住田町上有住字大畑67-7 柏崎 遵 他13名
紹介議員	佐々木 信一、高橋 靖
付託常任委員会	産業経済常任委員会（委員長 阿部 祐一）
委員会審査の結果	不採択と決定（町道清水沢只越線は現在、利用実態はなく改良の必要性がないと判断。林道の町道認定は、利用戸数3戸以上の基準に満たない。）
本会議での採決	賛成少数で不採択と決定

請願第7号	11歳以下への新型コロナワクチン接種の「努力義務」規定の撤回と健康な未成年への新型コロナワクチン接種の即時中止を国へ求める意見書提出の請願
請願第8号	新型コロナウイルス感染症の感染症法における分類は、新型インフルエンザ等感染症から5類感染症へ改正することを国へ求める意見書提出の請願
請願者の住所 団体・氏名	住田町上有住字中沢70-1 すみたの子どもたちの未来を守る会 佐々木 公一
紹介議員	水野 正勝
付託常任委員会	総務教民常任委員会（委員長 高橋 靖）
委員会審査の結果	不採択と決定（新型コロナウイルス感染症は、国の基本的対処方針に基づいて対策が行われている。）
本会議での採決	賛成少数で不採択と決定

請願採決状況一覧

○：賛成 ×：反対 欠：欠席
議長は採決に加わりません

請 願	水野 正勝	荻原 勝	佐々木 初雄	佐々木 信一	佐々木 春一	村上 薫	阿部 祐一	林崎 幸正	菊池 孝	高橋 靖	菅野 浩正	瀧本 正徳	議決結果
請願第6号 町道清水沢只越線の改良舗装工事と林道只越線の町道認定と改良舗装工事について	×	×	×	○	×	×	×	欠	×	○	×	—	不採択
請願第7号 11歳以下への新型コロナワクチン接種の「努力義務」規定の撤回と健康な未成年への新型コロナワクチン接種の即時中止を国へ求める意見書提出の請願	○	×	×	×	×	×	×	欠	×	×	×	—	不採択
請願第8号 新型コロナウイルス感染症の感染症法における分類は、新型インフルエンザ等感染症から5類感染症へ改正することを国へ求める意見書提出の請願	○	×	×	×	×	×	×	欠	×	×	×	—	不採択

一般質問

町の考えを問う

インボイス・シカ肉活用
移住定住などで論戦

6人の議員が質問

ページ	質問者 (登壇順)	質問項目
9	おぎわら 荻原 勝 <small>まさる</small>	① 移住定住政策 ② 昭和橋下流の仮設橋や周辺の安全対策
10	むらかみ 村上 薫 <small>かおる</small>	① 令和5年度予算 ② 林業振興の新しい視点 ③ 鳥獣害対策
11	あへ 阿部 祐一 <small>ゆういち</small>	① 郷土芸能の保存 ② 町民ホールの音響設備改善
12	ささきはるか 佐々木春一 <small>はるか</small>	① 国民健康保険特別会計における財政状況と国保負担軽減 ② 介護保険制度に向けた対応 ③ 消費税のインボイス（適格請求書）制度の対応
13	みずの 水野 正勝 <small>まさかつ</small>	① 新型コロナウイルス感染症対策
14	ささきしんいち 佐々木信一 <small>しんいち</small>	① 自然エネルギーの取り組み ② ニホンジカ駆除、地域資源への活用

全文記録（議事録）は、役場庁舎2階の総務課と町のホームページ上で閲覧できます。
（QRコードで議会ホームページへ直接進むことができます）



一般質問は、議員が町の行財政全般にわたり、施行状況や将来に対する方針を聞き、疑問点をたじます。質問方法は、1回目は一括して質問しますが、2回目以降は1問ずつ質問する1問1答方式を採用しています。持ち時間は、答弁を含めて60分です。

問 どう進めるU・イターン

答 「仕事・学びの場」を活用

問 2月に「仕事・学びの場」が開設されるが、Uターン・イターンの新たな雇用の場創出をどのように進めていく考えか。

答 町長

令和5年1月に完成予定の本町団地跡地に整備している「仕事・学びの場」を活用していきたい。Uターン・イターンの新たな雇用の場創出に向けた運用等では、企業がお試しサテライトオフィスと

して施設を利用することで、その後に当町にオフィスを本格設置するまでの受け皿となり得る。個人がリモートワークする場所として施設を利用し検討することで、新たな仕事場所として移住を選択できる足がかりとなり得ると考えている。

問 「若手県U・イターンセンター」をどのように活用しているのか。

答 町長
町の移住PRパンフレットを当センターなどに設置している。今後とも関係機関と連携し、移住定住政策を進めていく。

イターンとは都会で生まれ育った人が地方へ就職・転職すること
サテライトオフィスとは
本社から離れた事務所



おぎわら 荻原 まさる 勝 議員

移住定住政策では町外の関係機関に住田町のイメージを持ってもらうことが大切

議員のつぶやき

町の考えを問う

問 仮設橋の安全通行は

答 看板や路面標示で周知

問 昭和橋下流の仮設橋や周辺道路の利用にあたり、地域住民の安全通行をどう図るのか。

答 町長

県の住田整備事務所による工事説明会の際、周辺迂回路などに関する安全対策等の要望を受けているが、それぞれに対策を取っている。住田整備だよりによる迂回路の周知、周辺道路の安全運転の呼びかけ、看板や路面標示による運転者への注意喚起などもしている。学校への説明は、住田整備事務所が学校に直接出向いて行なった。

問 通行止めの判断は。

答 町長

基本的に、河川の水位が橋げたの高さに近づいた場合には、早めに対策を取る必要があると捉えている。通行止めの判断は住田整備事務所が主体となるが、町でも判断目安を共有している。現場のパトロールに努め、通行規制の際には広報などの対応にもあたりたい。気象災害発令時等の児童生徒の通学方法は、学校や教育委員会が危機管理マニュアルを作成している。



△ 仮設橋の渡り初めをした世田米保育園の園児たち

問 新年度予算重点施策は

答 子育て環境の確保



むらかみ 村上 議員
かおる 薫 議員

町の考えを問う

今後、中学校統合後の教育環境の在り方を考えなければならない

議員のつぶやき

問 新年度予算に係る町長の重点施策は何か。

答 町長

まずは人口減少対策となる。若年層の流出を抑え、子育て世代を呼び込むための事業推進と安心できる子育て環境の確保に取り組む。また、新型コロナウイルスの経済対策に係る事業検証をし、国の動向も踏まえ、物価高騰対策を迅速に対応していきたい。自治体GX（グリーン・トランスフォーメーション）と自治体DX（デジタルトランスフォーメーション）についても推進を図る。

問 今年度の総合計画見直しにあたり、どのような内容が反映されるのか。

答 町長

教育分野において中学校の統合を進めることを明記し、小学校を含めた今後の学校教育環境の在り方について検討を進めることとした。エネルギー施策では、国が進める化石燃料からクリーンエネルギーへの移行を目指す自治体GXを追加。情報分野においては、デジタル社会の実現に向けた住民の利便性や行政サービスをさらに向上させるため、自治体DXを推進することを追記した。

問 どう捉える「造林マイスター」

答 再造林への意識喚起

問 住田高校に林業科または森林環境科の設置を県に要望し、実現を図るべきと考えるがどうか。

答 教育長

高校魅力化向上の観点では、住田高校には普通科で学ぶことを希望する生徒が入学している。設置には実習施設や専門教員など必要であり、県

教育委員会より「新たな県立高等学校再編計画」が示されていることから新たな設置は困難であると考えている。

問 伐採後の私有林は、多くが植林されず放置状態にある。秋田県による「造林マイスター制度」をどう捉えているか。

「造林マイスター」は、造林地の適地判定調査や収支計画作成などの支援により、森林所有者の再造林への意識喚起を図る制度である。マイスターの林業経営体では所有者と造林保育管理契約を締結し、所有者に代わって再造林とその後の管理を約10年間実施する取り組みが開始された。適切な森林管理を促すための地域実情に即した林業施策の一例と認識をしている。

答 町長

「造林マイスター」は「造林地の適地判定調査や収支計画作成などの支援により、森林所有者の再造林への意識喚起を図る制度である。マイスターの林業経営体では所有者と造林保育管理契約を締結し、所有者に代わって再造林とその後の管理を約10年間実施する取り組みが開始された。適切な森林管理を促すための地域実情に即した林業施策の一例と認識をしている。

※その他の質問

- 鳥獣被害対策における「地域おこし隊の設置」
- 「イノシシ捕獲対策」
- 「猟犬の使用許可」
- 「柿の有効活用」



△ 再造林には、各種補助金や経費などの収支計画アドバイスは欠かせない

問 芸能の映像保存へ支援を

答 地域との連携で取り組む

問 町内の郷土芸能では地域の人口減少や高齢化により、その保存や継承に課題が生じている。町としてどのように取り組む考えか。

答 教育長

教育委員会では、文化産業まつりでの郷土芸能の舞台発表機会の提供を行っている。今後は、郷土芸能保存会や地域の皆様と情報や意見を交換しながら対応を考えたい。

問 郷土芸能を後世に継承していくためには、練習風景なども含めた映像による保存が重要となる。町としてもその支援をしていく必要があると考えるがどうか。

答 教育長

郷土芸能は地域の伝統として継承がなされているため、地域の方々と郷土芸能団体連絡協議会、担当課と連携をしながら取り組んでいきたい。



△ 映像化により、後継者不足の改善や保存が期待される郷土芸能（下在大名行列）



あべ 阿部 祐一 議員

郷土芸能をデジタル保存し、後継者対策を早急に進めるべき

議員のつぶやき

町の考えを問う

問 ホール音響の抜本改善は

答 マイクやスピーカーの再調整

問 役場市民ホールは、利用開始当初から音響が聞こえにくいとの指摘が多くの町民から寄せられてきた。どのような対策をしてきたのか。

答 町長

市民ホールは、天井が高く、内壁は木造庁舎との調和に配慮した造りとなっており、音声の残響時間が長く、聞き取りにくい面があった。これまで6台のスピーカーを導入し解消を図ってきた。

問 いまだ高齢者の方々からは音声が聞き取りにくいとの声もある。市民ホールの抜本的な改善が必要と考えるがどうか。

答 町長

ホールの改修は検討していないが、音響設備の改善を図りたい。専門的な知見で再度マイクやスピーカーの調整を検討。利用に際してはマイクを必ず使用されるよう説明に努めていきたい。

問 国保税の引き下げを

答 当分の間 今の水準で

問 町民には国保税の負担が大きく、引き下げを求める声が多いが。

答 町長 国保税は、県へ支出する納付金の財源となるもので、県から示される標準保険料率と比べて低く設定している。当分の間今の水準で保つていくべきと考えている。

問 国民健康保険特別会計の財政状況は。

答 町長 令和3年度決算の実質収支は6800万円の赤字となり、ここ数年間は基金の取り崩しや法定外繰り入れもなく健全な財政運営である。

- 厚生労働省が示した介護改正の論点
- ①介護保険サービスの利用率2～3割負担の対象拡大
 - ②要介護1、2の保険給付外し
 - ③ケアプラン（介護計画）の有料化
 - ④老健施設などの相部屋（多床室）の有料化
 - ⑤保険料の納付年齢の引き下げと利用年齢の引上げ
 - ⑥補給給付の資産要件に不動産を追加
 - ⑦「高所得者」の保険料引き上げ

問 本町の子ども均等割は、33900円かかる。子育て支援からも免除・減免すべきと思うが。

答 町長 未就学児の均等割が、今年度から5割軽減された。国の基準に従って実施していくべきと捉える。

介護保険サービスの利用者負担割合が改正されれば、利用者のみ皆さんの負担が増えるものと捉える。



△ 令和5年度は、第9期介護保険事業計画を巡って3年に1度の見直しが行われる

問 厚生労働省は、介護保険制度改定に向け議論しているが、75歳以上の医療費窓口負担2割に続き、介護でも大幅な負担増・給付削減を押し付ける中身と思われるが。

答 町長 給付と負担について、7つを論点（別表）として検討が行われている。

問 利用料の負担が増加した場合の影響は。

答 町長 必要な介護サービスの利用回数が減ることによって、身体を動かす機会が減り筋力低下など体調が悪くなり、家族の介護負担が増えるなど、生活への支障や将来の不安を増大させる懸念をしている。

問 インボイス（適格請求書）制度とは

事業者が、売り上げにかかる消費税額から仕入れなどにかかる消費税額を差し引く計算を、インボイスと呼ばれる請求書で納税する制度。

答 町長 内容が複雑でわかりにくく、登録はあくまでも事業者の任意とされているが、判断の迷いや様子を見ている事業者が多い。中小事業者や農業者に対してさらなる周知が必要であることから、相談に対応していきたい。



ささきはるかず 議員
佐々木春一

コロナ禍に、原油・物価高騰の危機が押し寄せる今、暮らしと経済の下支えには消費税を減税し、インボイスは中止を…

議員のつぶやき

町の考えを問う

問 介護負担増の影響は

答 生活不安の増大懸念

インボイスの中止を

問 来年10月に導入予定のインボイス（適格請求書）制度は、いまだ制度の内容が理解されず、導入中止を求める声が上がっているが。

答 町長

問 新規感染者世界一の原因は

答 複数接種と因果関係不明

問 多くの国では、新型コロナウイルスの感染流行が終息しマスク着用などの対策もとられていない。その要因を町としてどのように捉えているか。

答 町長
世界的に新規感染者数は減少傾向にあるが、増加している国もある。流行が終息したとは言えない状況にあると捉える。マスク着用は欧米では元来、着用する習慣がな

いことや死者数が一時期よりもかなり減少したことを受け、各国がマスク着用義務を解除したことによるものと推測する。

問 日本が世界一の新規感染者数を記録している原因は、過剰な検査範囲やマスクなどの過剰な接触対策、世界で最もコロナワクチンを複数回接種し続けていることにあると考えるがどうか。

答 町長
検査対象範囲は世界統一基準とはなっていない。日本では感染症診療の手引きや検査指針に基づいて行われているが、過剰なものではないと捉える。複数回のコロナワクチン接種については、発症や重症化予防効果が期待されるために実施されている。複数回接種と感染者数の増加には、因果関係は確認されていない。



みずのまさかつ
水野正勝 議員

自己免疫や感染獲得免疫はとても重要です。本当の集団免疫とは何かを考えるべきだと思います

議員のつぶやき

町の考えを問う

問 医療者の危険性説明は十分か

答 診察と不明点の相談体制で

問 コロナワクチンが原因とされる病気の発症や基礎疾患の悪化、身体に不調や変化が発生しているものと考えられる。本町における状況はどうか。

答 町長
厚生労働省には、ごく稀ではあるものの心筋炎や心膜炎を疑う事例が報告されている。接種後に基礎疾患の悪化や体調不良などの事例もあるかもしれないが、因果関係は結論づけられてはいない。本町の現状については公表されておらずお答えしかねる。

問 コロナワクチン接種において副反応や死亡など、接種の危険性が医療従事者により接種希望者へ十分にインフォームドコンセント(説明と合意)がなされてきているものか、事業監督者である町の見解はどうか。

答 町長
接種希望者へは事前に説明書を配布しており、接種会場でも医師による診察を行っている。不明な点など相談体制も整えている。十分に理解をしたうえで接種されているものと捉えている。



△ 令和4年10月20日、コロナワクチン接種後に死亡した人の遺族らが記者会見を開き遺族会を結成

問 林地残材や未利用材活用は

答 システムの本格稼働で



さ さ き しんいち
佐々木信一 議員

町の考えを問う

年間千頭以上のシカを捕獲している。加工場を早く進めることが大事だ

議員のつぶやき

問 本町のエネルギー全体計画の進捗状況はどうか。

答 町長

世田米保育園、役場庁舎や大船渡地区消防組合住田分署、特別養護老人ホームすみた荘に木質利用ボイラーを設置。一般家庭への木質燃料燃焼機器購入への補助をしている。太陽光発電設備は役場庁舎をはじめ各公共施設に設置している。上新田には太陽光発電設備が、稼働している。風力発電設備は旧名古根牧場跡地と隣接する遠野市に27基の風車が設置され工事が進行している。

問 自然エネルギーの掘り起こしと豊富にある資源の活用をどう進めていく考えか。

答 町長

再生可能エネルギーへの取り組みは、町内の豊富な森林資源を活用し、循環型地域社会の実現を目指した木質バイオマスエネルギーを主体としている。太陽光、風力、水力の活用は用途や効果を検証しながら、自然環境との調和にも配慮し、自然エネルギーの発掘も視野に入れ可能性を検討していく。

問 太陽光発電蓄電池を補助対象に取り入れるべ

きと思うがどうか。

答 町長

地球環境への負荷を軽減するための、新エネルギー・省エネルギー機器設置費補助事業は、平成29年に終了した。今後は、脱炭素社会の実現に向けた取り組みとして国、県の政策を注視していきたい。

問 林地残材や未利用材を活用した再生可能エネルギーをどう進めていくのか。

答 町長

住田町再生可能エネルギー活用推進計画のもと、林地残材や未利用材の活用は、本町の課題と捉え最優先に取る組むべきと位置付けている。収集、運搬から燃料化までのシステム化は、早急に取り組みを進めるために、森林組合と協議しながら本システムの本格稼働を図っていく。

問 シカ肉加工販売を

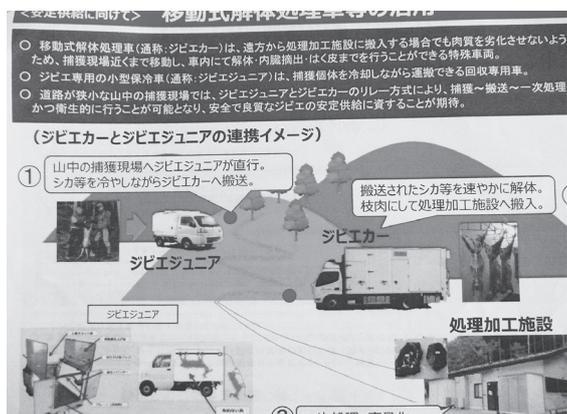
答 取り組みに補助

問 シカ肉加工場を整備し食肉用として販売する考えはないのか。

答 町長

東京電力福島第一原発事故以降、町内全域で利用自粛限がかかっている。ジビエの活用には、厚生労働省が定めるガイドラインに沿った衛生管

理、県の出荷検査方式に基づく放射能物質検査の全頭実施など大きな課題がある。ジビエ加工施設の経営は厳しい状況ととらえるが、シカ肉加工場の整備を希望する事業者には補助事業の活用を相談いただきたい。



広域行政の連携を目指して 事務組合議会

決算を認定

岩手沿岸南部広域環境組合議会

派遣議員 阿部祐一、水野正勝

<令和3年度 一般会計決算>

歳入 14億5886万4299円
歳出 14億4775万4072円
差引額 1111万 227円

<分担金・負担金>

住田町 8194万2000円

<沿岸南部クリーンセンター状況>

令和3年度
ごみ搬入量 2万7967ト
温浴施設利用者 1589人



気仙広域連合議会

派遣議員 高橋 靖、佐々木信一

<令和3年度 一般会計決算>

歳入 2億1441万2846円
歳出 2億 989万8059円
差引額 451万4787円

<負担金>

住田町 1960万円

<介護認定審査会審査件数>

令和3年度 住田町 358件

<し尿処理量>

令和3年度 2万4126kℓ



大船渡地区環境衛生組合議会

派遣議員 村上 薫、荻原 勝

<令和3年度 一般会計決算>

歳入 2億3858万4609円
歳出 2億2167万5779円
差引額 1690万8830円

<分担金>

住田町 3380万8000円

<大船渡クリーンセンター状況>

令和3年度
ごみ搬入量 1万339ト
(大船渡市・住田町の合計)



大船渡地区消防組合議会

派遣議員 林崎幸正、佐々木春一

<令和3年度 一般会計決算>

歳入 9億2013万 479円
歳出 8億9686万3625円
差引額 2326万6854円

<分担金>

住田町 1億5717万6000円

<火災発生状況 件数・損害額>

令和3年度
大船渡市 7件・4058万円
住田町 1件・ 18万円



総務教民常任委員会

挑戦できる環境づくり

11/18

コミュニティスペース
マルマル
住高ハウス〇〇
(岩手県立住田高等学校)

魅力化の取り組み調査

生徒の〇〇を見つける



住田高校魅力化の現状とこれからについて住高ハウス〇〇を訪問し、教育コーディネーターの方々と意見交換を行いました。住田高校が町の持続可能性を高めるための重要な存在であることから、町と高校の連携をより推進することを目的に、令和4年4月より「住田高校魅力化構想」を展開。生徒自身がこれからの人生で挑戦していきたい「〇〇」なことを見つけることができる環境づくりを中心に取り組みが進められています。今後は魅力化構想のさらなる周知と充実が望まれます。

常任委員会

鶏糞堆肥ペレット化施設

産業経済常任委員会

ブロイラー鶏舎を視察

10/27

(株)チキンファーム住田
有気仙環境保全堆肥センター
(種山地区子飼沢)

国際的な影響による化学肥料をはじめとした農業生産資材の価格高騰や電気・ガス等の燃料高騰を受け、当町の農業・畜産業振興に資するため、(有)気仙環境保全堆肥センターと(株)チキンファーム住田(生産農場)の視察を行いました。

各施設の運営状況や接続する道路状況などについても説明をうけ意見を交換。耕畜連携に関わる事業展望とブロイラー産業の重要性や将来性をあらためて認識しました。今後、町への政策提言をさらに深めてまいります。





11/21~22

町村議会広報担当者研修会
(花巻温泉 ホテル紅葉館)

読みたくなる広報

県下19町村議会57名の議会広報担当委員が一堂に会し、岩手県町村議会議長会の主催による広報研修会が開催されました。当議会からも5名の委員が参加し、議会広報を発行する意義や目的、編集の基本技術などを受講。引き続き町民目線に立ち、分かりやすい言葉や表現に留意することを意識し、読みたくなる広報づくりを目指していきます。

議会広報が目指すもの

- ・見える化
- ・機能発揮
- ・民意反映
- ・信頼醸成
- ・情報共有
- ・認知参加
- ・説明責任



住民に読まれ、伝わり
議会の見える化へ

町のトピックス

「昭和橋撤去工事」安全祈願祭

90年の歴史に想いを

11月4日、令和5年度からの新橋設置工事に着手するため、昭和橋解体撤去工事の安全祈願祭と渡り納め会が現地にて開かれました。当議会からも世田米地区選出議員4名が出席。地域住民の方々と共に、昭和橋の90年にわたるこれまでの歴史に想いを巡らせました。



歳末たすけあい芸能祭

「北国の春」で参加

12月4日、歳末たすけあい芸能祭が3年ぶりに開催されました。当議会では歳末の共同募金への協力を図ろうとの開催主旨に賛同し、23年前より参加出演を継続しています。出番では、千昌夫さんの「北国の春」を皆で合唱し、歌声を会場に響き渡らせました。



追跡レポート⑦⑧ 一般質問その後 どうなりました

あの提言

シニア層のデジタル 機器活用を

議員が行う質問や提言が、町政にどう反映されているか。これまでの質問の中から一部を取り上げ、その後どうなったか追跡してみました。

質問

社会教育で支援すべき

シニア層においても生活インフラとしてのデジタル（パソコンやスマートフォン）は欠かせない時代。高齢者のデジタル機器活用を社会教育の側面からも支援していくべきでは。

答弁

まずは高齢者教室で

社会教育事業におけるシニア層を対象とした身近な学習機会を、高齢者教室となる。各地区の運営委員の意見を聞きながら進めていきたい。

その後



住民の声

みかみ つぎこ
三上 次子 さん
世田米字下大股

「スマホは貸すから」というので参加してみました。講師の方がやさしく写真の撮り方を教えて下さって自分でも撮ることができました。老化防止にもよいので、また参加したいです。

全5地区で「スマホ講習会」



△ 高齢者教室においてスマートフォンを手に取り使い方などを体験。講師は、陸前高田市の(社)トナリノ

すみた想い人 ②

町民の皆さんに登
場していただく企画
になります。町や議
会に対しての意見、
活動を通して「まち
づくり」への想いを
紹介していきます。



▲ 和気あいあいとお茶を飲みながら、雑談に花を咲かせています

今回は、川口地区に
地域よりあいカフェ
「ねむの木カフェ」を
立ち上げた菊池留理子
さんです。地域の皆さ
んが気軽に集まり和気
あいあいと、お茶っこ
飲み会や楽しみづくり
に取り組んでいます。

Q 活動している会の
名前の由来は。
A 大渡の垣の袖橋の
傍らにある「貼っ
こ屋」と呼ばれる集会場
を使用させていただいて

Q 主に活動している
ことは。
A 社会福祉協議会が
進める「地域より
あいカフェ」の指導の下、
川口地区に「ねむの木カ
フェ」を立ち上げました。
月一回近隣に住む10名ほ
どの方々が集まりお茶っ
こ飲みを行っています。



きくちりこ 菊池留理子さん 世田米字向川口

和やかな雰囲気の中で

います。橋のたもとは
会の名前の由来となつた
大きな合歓木(ねむの木)
があります。

Q 建物はどのように
作られましたか。

A 子供や高齢者が気
軽に集まり楽しく
過ごせる場所があればと
の想いで、東日本大震災
発生から数年後に払い下
げられた仮設住宅を大渡
の垣の袖橋たもとに移設
しました。

この集会場は、土足で
入れる気軽さと駐車しや
すいことで、会議や反省
会など色々な行事や休憩
室などと多目的に利用し
ています。

Q 活動を通して感じ
ていることは。

A 高齢者が孤独にな
らないうように横の
つながりを大切に、和
やかな雰囲気の中で、作
品づくりを教えたり教
わつたりと雑談に花を咲
かせて、楽しいひと時を過
ごせることにやりがい
を感じています。

Q 町や議会に望むこ
とは。

A 川口自治公民館は
高台に在り、坂道
を上がつて行かなければ
ならず足が遠のきます。
駐車場や道路も狭く車社
会の現実には合いません。
平場に広い駐車場がある
公民館があればいいと思
います。

議会を傍聴しよう!

町議会は誰でも傍聴でき
ます。次の3月議会の予定
は下表のとおり。
生活改善センター議会棟
の入口から案内に従って傍
聴席へお入りください。

令和4年12月
議会の傍聴者は
13人でした



3月議会は

日	月	火	水	木	金	土
			1	2 一般質問	3	4
5	6 議案審議	7 予算審査特別委員会	8	9	10	11
12	13 議案審議	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

住田テレビ放映もどうぞ



本会議や一般質問の様子は、
住田テレビの「議会放送」でも
ご覧いただけます。
放映時間は午後6時からです。



パート
12

わたしの未来

住田町の子どもたちが
将来の夢を語る

コーナーです。

自薦・他薦も大歓迎。申し
込みをお待ちしています。

おいしいケーキ作り

私は将来、**パティシエになりたい**と思っています。叔母さんがよくおいしいチーズケーキなどを作ってくれるので、私もケーキやお菓子を作ることが好きになりました。私もおいしいケーキやお菓子を作ってみんなを喜ばせたいと思います。



世田米小学校6年
いづみた めいか
泉田 明華
(世田米字赤畑)

動物を助ける獣医に

ぼくは、スポ少でバレーボールを1年生からやっています。5年生からキャプテンです。6年生になった今年は、よい結果を残せてよかったです。将来は、動物が大好きなので**獣医になって**たくさんの動物を助けてあげたいです。夢に向かってがんばりたいです。



有住小学校6年
さとう ひろと
佐藤 祐人
(上有住字恵瀬)

編集後記

広報編集常任委員会
委員 菅野浩正

- ▼ 振り返りますと議会活動の「見える化」「見てもらう化」を考えると、歴史ある「住民と議員との懇談会」は新型コロナウイルス感染症によって中止となり、膝を交えた政策論争ができないのは残念でなりません。
- ▼ 新型コロナウイルス感染症で諸行事は追い込まれ相次ぐ物価高により生活は苦しくなっています。正念場と思って議会と一緒に乗り越えていきましょう。
- ▼ 町民の皆さまにとって明るい年となりますよう願っています。

表紙の写真



世田米保育園



12月22日。世田米保育園ではクリスマス会が行われました。特別におしゃれをしてきた子どもたちが教室で歌を歌っていると、どこからともなく鈴の音が。「メリークリスマス！」大きな袋を持ってサンタさんが登場。一人ひとり、順番にプレゼントをもらおうと「中身は何かな?」「サンタさんありがとう!」と嬉しそうな子どもたち。ぶどう組(年長)の男の子は、「俺、サンタさん信じる!」と笑顔で話してくれました。

広報編集常任委員会

発行責任者	議長	瀧本 正 徳
	委員長	佐々木 信 一
	副委員長	水野 正 勝
	委員	菅野 浩 正 阿部 祐 一 佐々木 春 一 荻原 勝

